

△使用上の注意



してはいけないこと

(守らないと現在の症状が悪化したり、副作用・事故が起こりやすくなる)

1. 次の人は服用しないこと

本剤または本剤の成分によりアレルギー症状を起こしたことがある人。

2. 本剤を服用している間は、次のいずれの医薬品も使用しないこと

他の鎮咳去たん薬、かぜ薬、抗ヒスタミン剤を含有する内服薬等（鼻炎用内服薬、乗り物酔い用薬、アレルギー用薬、催眠鎮静薬等）、鎮静薬、トラネキサム酸を含有する内服薬

3. 服用後、乗り物または機械類の運転操作をしないこと

(眠気等があらわれることがある。)

4. 授乳中の人は本剤を服用しないか、本剤を服用する場合は授乳を避けること

5. 過量服用・長期連用しないこと



相談すること

1. 次の人は服用前に医師、薬剤師または登録販売者に相談すること

(1) 医師または歯科医師の治療を受けている人。

(2) 妊婦または妊娠していると思われる人。

(3) 高齢者。

(4) 薬などによりアレルギー症状を起こしたことがある人。

(5) 次の症状のある人。

高熱

ブロムヘキシン塩酸塩でアレルギー症状を起こしたことがある人が、再度服用すると、ショック（アナフィラキシー）⁶⁾の重篤な副作用を生じることがあるので、服用できません。
用語解説 6) 参照

併用すべきでない一般用医薬品の薬効群を記載しています。併用した場合には医薬品の作用の増強、副作用の増強等が考えられます。

他の鎮咳去たん薬、かぜ薬、抗ヒスタミン剤などでは、本剤と重複した成分や類似の作用をもつ成分を含んでいることが多く、併用による危険性が考えられます。本剤を服用している間は、これらの医薬品を服用できません。

ジヒドロコデインリン酸塩は、服用により眠気をもよおすことがあるので、本剤を服用後は乗り物または機械類の運転操作はできません。

海外で、コデインがモルヒネに代謝されて、母乳に移行したことにより、乳児に中枢神経抑制（過度の傾眠、哺乳困難、呼吸困難）が生じたとの報告があります。
本剤に配合されているジヒドロコデインリン酸塩は、体内でコデインと同様の代謝が考えられます。

本剤は、症状が出た時に服用する対症療法の薬で、長期に服用するものではありません。漫然と長期に服用すると副作用があらわれるおそれがあるので、症状がよくなった時点で服用を中止すべきです。また、短期の服用で症状がよくなる場合には、他の疾患の疑いも考えられます。

共通事項解説〔3〕参照

共通事項解説〔4〕参照

高齢者は一般に代謝・排泄機能が衰えているため、薬剤が蓄積されて、作用が強くあらわれることがあるので、本剤を服用前に医師、薬剤師または登録販売者に相談することが必要です。

共通事項解説〔5〕参照

高熱のある人は、他の疾患に罹っていることも考えられるので、本剤を服用前に医師の診療を受けるなど医師、薬剤師または登録販売者に相談することが必要です。

【使用上の注意】

【解 説】

共通事項解説はこちら

(6)次の診断を受けた人。

心臓病、高血圧、糖尿病、腎臓病、甲状腺機能障害、血栓のある人（脳血栓、心筋梗塞、血栓性静脈炎）、血栓症を起こすおそれのある人、呼吸機能障害、閉塞性睡眠時無呼吸症候群、肥満症

2.服用後、次の症状があらわれた場合は副作用の可能性があるので、直ちに服用を中止し、この文書を持って医師、薬剤師または登録販売者に相談すること

関係部位	症 状
皮 膚	発疹・発赤、かゆみ
消化器	吐き気・嘔吐、食欲不振、胸やけ、胃部不快感、腹痛
精神神経系	めまい、頭痛
呼吸器	血たん

まれに下記の重篤な症状が起こることがある。その場合は直ちに医師の診療を受けること。

症状の名称	症 状
ショック (アナフィラキシー)	服用後すぐに、皮膚のかゆみ、じんましん、声のかすれ、くしゃみ、のどのかゆみ、息苦しさ、動悸、意識の混濁等があらわれる。
呼吸抑制	息切れ、息苦しさ等があらわれる。

3.服用後、次の症状があらわれることがあるので、このような症状の持続または増強が見られた場合には、服用を中止し、この文書を持って医師、薬剤師または登録販売者に相談すること
便秘、下痢、眠気

4.5～6回服用しても症状がよくなる場合は服用を中止し、この文書を持って医師、薬剤師または登録販売者に相談すること

①dl-メチルエフェドリン塩酸塩は、交感神経刺激作用により、心拍数を増加し、血圧を上昇させるため、心臓病、高血圧、甲状腺機能障害¹⁷⁾の人が服用すると疾患を悪化させることがあります。

また、肝臓のグリコーゲンを分解して血糖を上昇させるため、糖尿病の人が服用すると疾患を悪化させることがあります。

②トラネキサム酸は、腎排泄型の薬剤であるため、腎機能が低下している場合、正常な場合に比べ、血中濃度が上昇することが考えられます。また、プラスミンのフィブリン分解作用を阻害し、血栓を形成する作用があるため、血栓のある人（脳血栓、心筋梗塞、血栓性静脈炎）、血栓症¹⁹⁾を起こすおそれのある人が服用すると血栓を起こしたり、疾患を悪化させることがあります。

③コデインがモルヒネに代謝されると、モルヒネの呼吸抑制作用のため、呼吸機能障害および閉塞性睡眠時無呼吸症候群²⁵⁾の人が服用すると疾患を悪化させることがあります。また、肥満症の人は閉塞性睡眠時無呼吸症候群を有している場合が多く、服用すると気道が閉塞することがあります。

よって、これらの診断を受けた人は本剤の服用前に医師、薬剤師または登録販売者に相談する必要があります。

用語解説 17)、19)、25) 参照

本剤の服用により、人によってはこれらの症状があらわれることがあります。このような症状があらわれた場合には服用を中止し、医師、薬剤師または登録販売者に相談していただくための注意です。

本剤に配合されている成分により、まれに下記の報告があります。これらの症状が認められた場合は直ちに服用を中止し、早急に医療機関での適切な処置をとることが必要です。

①ショック（アナフィラキシー）⁶⁾：プロムヘキシシ塩酸塩が原因の可能性がります。

②呼吸抑制：ジヒドロコデインリン酸塩が原因の可能性がります。

用語解説 6) 参照

これらの症状は、服用を一時中止すれば消失するものですが、症状の持続または増強が見られた場合には、他に原因があることも考えられるので、医師、薬剤師または登録販売者に相談していただくための注意です。

5～6回服用しても症状がよくなる場合は、他に原因があることも考えられます。症状がよくなるまま服用を続けると悪化することも考えられるため、医師、薬剤師または登録販売者に相談していただくための注意です。

＜用法・用量に関連する注意＞

(1)小児に服用させる場合には、保護者の指導監督のもとに服用させること。

(2)用法・用量を厳守すること。

(3)錠剤の取り出し方

図のように錠剤の入っているPTPシートの凸部を指先で強く押して、裏面のアルミ箔を破り、取り出して服用すること。

(誤ってそのままのみこんだりすると食道粘膜に突き刺さる等思わぬ事故につながる。)



共通事項解説〔6〕参照

共通事項解説〔7〕参照

共通事項解説〔8〕参照

保管および取扱い上の注意

(1)直射日光の当たらない湿気の少ない涼しい所に保管すること。

(2)小児の手の届かない所に保管すること。

(3)他の容器に入れ替えないこと（誤用の原因になったり品質が変わる）。

(4)使用期限を過ぎた製品は服用しないこと。

(5)箱の「開封年月日」記入欄に、内袋（アルミの袋）を開封した日付を記入すること。

(6)一度内袋（アルミの袋）を開封した後は、品質保持の点から開封日より2ヵ月以内を目安になるべくすみやかに服用すること。

(7)内袋（アルミの袋）の中の乾燥剤は服用しないこと。

共通事項解説〔9〕参照

共通事項解説〔10〕参照

共通事項解説〔11〕参照

共通事項解説〔14〕参照

共通事項解説〔15〕参照

共通事項解説〔16〕参照

この乾燥剤は主成分が合成ゼオライトです。これは吸湿のほか、袋の中の酸素・窒素も吸着します。また、経口摂取した場合の安全性はシリカゲルより高くなっています。

急性毒性LD₅₀ (mg / kg、マウス、経口)
本乾燥剤9300以上、シリカゲル3000以上

ヒトでは相当な枚数を食べない限り、問題ないと思われれます。毒性よりもむしろ、のみ込んだときに「のど」につまらせたりしないよう特に乳幼児やお年寄りの誤飲に注意が必要です。

*LD₅₀：その用量で投与した動物の半数が死亡する用量をいう。